

# 仮設ファニチャーで設えた広場空間のデザインのあり方

大手町地区における試行を通して

Consideration of the Design of the Plaza through a Trial Set up with Temporary Furniture

三友奈々

Nana MITOMO

日本大学

Abstract :In 2025, a pedestrian bridge will be built over the Nihonbashigawa River in Chiyoda Ward, Tokyo. A social experiment was conducted in the Otemachi district to provide reference for the design and planning of the plazas in front of the pedestrian bridge. This paper aims to understand the attributes and activities of users at "BATON PARK-

KAWABATA- RYOKUDO-" in 2022.

In the social experiment, a plaza space was created with temporary furniture between the benches, but in the future, the plaza can also utilize temporary furniture and be designed to be suitable for both weekdays and holidays.

Key Word : Public Space, Social Experiment, Placemaking

## 1. はじめに

東京都千代田区に位置する大手町仲通りと大手町川端緑道の交点に日本橋川を跨ぐ歩行者専用の橋梁「仲通り散歩橋」が2025年に架橋される<sup>1)</sup>。日本有数のビジネス街である大手町地区と、老舗が並ぶ神田地区という対照的な地区をつなぐ重要な橋梁であり、その両端の広場は橋梁とともに、重要な地域拠点となることが期待されている<sup>1)</sup>。

将来的に大手町川端緑道に設置される橋詰広場の設計・計画の際の参考とするために2022年秋季及び2023年秋季に仮設ファニチャー等で広場空間を設える社会実験が実施された(表1)<sup>2)</sup>。そのうち本稿では試行的に行われた2022年度の「BATON PARK-KAWABATA-RYOKUDO-」における利用者の属性や活動についての傾向を把握し、仮設ファニチャー等で設えた広場空間のデザインのあり方について考察することを目的とする<sup>3) 註1)</sup>。

社会実験を行なった期間は、大手町川端緑道の一部が工事中であったため、そこでは社会実験を行うことができず、隣接する大手町仲通りで実施された。平日は就業者のためにテーブルが配置され、休日は子供連れの来街者のために遊具が設置され、試行的に平日と休日でも可変性のある空間が創出された。社会実験で使用したファニチャーは仮設であるが、本稿は恒常的な広場空間を再生・整備する際の一助にもなると考える。

表1 社会実験の概要<sup>2)</sup>

項目	説明
名称	BATON PARK-KAWABATA-RYOKUDO-
期間	2022年10月24日～30日(雨天荒天時は中止)
時間帯	平日12:00～19:00, 土日11:00～17:00
場所	大手町仲通り(東京都千代田区大手町1-9)
主催	一般社団法人大手町歩道マネジメント等
後援	千代田区, 独立行政法人都市再生機構

## 2. 調査方法

社会実験期間のうち、平日の利用状況を把握する平日調査として2022年10月28日(金)、休日の利用状況を把握する休日調査として2022年10月29日(土)に現地調査を実施する(表2)。

現地調査は、以下の通り二つの内容を実施する。

### (1) 利用者の全体把握調査

調査時点のエリア全体の利用者について把握するために、平日

は12時30分時から17時30分まで、休日は12時30分から16時30分まで1時間おきに調査者は調査地を歩いて一周し、調査時点の利用者の滞留位置及び属性・アクティビティを調査用紙に記録する。

### (2) 利用者の個別調査

利用者の滞留時間の長さやアクティビティの変化等、個々の利用者について詳細に把握するために、調査者は調査地に留まり、利用者の属性やアクティビティを観察調査し、調査用紙に記録する。属性は男性、女性、男性(子供)、女性(子供)と区分し、滞留の際に座った場合は「座位」滞留、座らないで立っている場合は「立位」滞留として記録する。

表2 調査日の概要<sup>4)</sup>

調査日	天気	最高気温
2022年10月28日(金)	曇後晴	19.2℃
2022年10月29日(土)	晴	22.0℃

## 3. 調査結果

現地での観察調査の結果、平日調査では図1、休日調査では図2の通りの時間帯別の利用者の人数を確認した。平日は近隣の就業者の昼休みの時間帯であると考えられる12:30, 13:30に利用者が多く、16:30に減少するものの17:30に再び増加した。一方、休日は13:30の利用者が最も少なく、14:30から16:30にかけて利用者は多くなった。

また、座位滞留と立位滞留のそれぞれの利用者の属性を区分すると、平日調査では図3、休日調査では図4の通りの人数を確認した。平日は就業者である大人が大多数であったが、休日には子供連れが多く見られた。平日は就業者による座位滞留が大半を占めた。社会実験では常設のベンチを補完する形で、仮設のファニチャー等が配置されたが、それらを活用して近隣の就業者が昼食を取ったり、PCで作業したりする姿が確認できた(図5)。ローテーブルやピクニックシート、クッションといった床座に対応できるファニチャーも設えたため、リラックスしている様子が見受けられた。

一方、休日は立位滞留が多かった。遊具で遊び続ける子供が多く、活発に動き続ける立位滞留とは対照的に、あまり移動のない静かな立位滞留として自身の子供を見守る大人の姿が見られた(図6)。

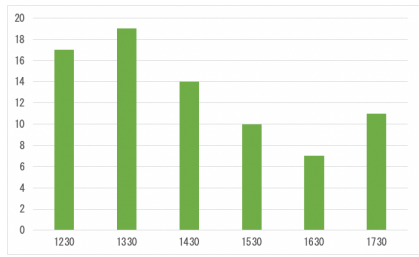


図1 平日調査の利用者の時間帯別人数 (人)

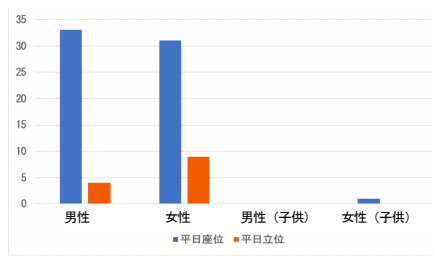


図3 平日調査の座位・立位別・属性別人数 (人)



図5 平日の様子

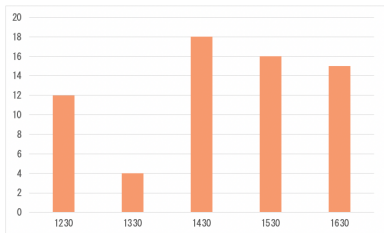


図2 休日調査の利用者の時間帯別人数 (人)

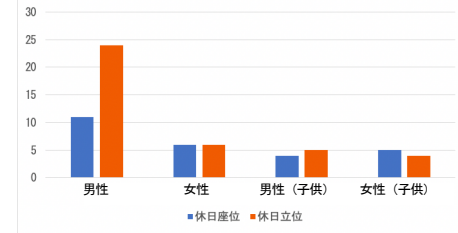


図4 休日調査の座位・立位別・属性別人数 (人)



図6 休日の様子

#### 4. 考察

社会実験において仮設ファニチャー等で広場空間「バトンパーク」を設けた結果、社会実験以外の日常時とは異なる利用者の属性やアクティビティが確認された。また平日と休日で一部異なった仮設ファニチャー等を設置した結果、平日調査と休日調査では異なる利用者の属性やアクティビティが見られた。

カラフルな仮設ファニチャーやクッション等のファブリックは、通常は落ち着いた広場空間に彩りを与え、楽しそうな雰囲気を出し、いつもとは異なる空間であることが歩行者に伝わりやすかったと考える。実際に人工芝やピクニックシートの上で、靴を脱いで床座をすると、開放感の中でリラックスして過ごすことができているようであった。特にグループで利用すると、仲間同士で内側を向いて座って会話や飲食をするため、周りからの視線も比較的気にならない様子が見受けられた。観光客や休日の来街者を対象とした、賑わいや交流を目的とした広場空間が目指すデザインの一つの方向性が示された。

今回は社会実験とは言え、将来的な広場空間を見据えた試行であり、単なる賑わい創出のイベントとは異なる。平日の日常時の主な利用者である男性1名の就業者もいつもと変わらずに気兼ねなく、心地良く過ごすことができる相応しいデザインを目指すことも重要である。そのため、平日は落ち着いた配色のファニチャーやファブリックを選定する等、社会実験でも将来的な空間でも、現在の利用者に配慮した空間の創出が求められる。日常的に多数を占める短時間の滞留者に対して、常設のベンチは不足していると考えられることから、靴を脱がなくてもリラックスして座ることができるスペースをより多く設置する必要がある。社会実験で設置したローテーブルやピクニックシートでの床座は視線が低くなり、周囲の歩行者や常設のベンチから見下ろされているように感じ、一人の場合は特に心理的に落ち着き難いと考えられる。一人でも床座で居心地良く過ごす空間を設置する場合は、人目が気にならないようにその周囲に空間的な余裕がある場所か、適度な圍繞感のある場所が望ましいと考える。

今回、単なる一過性のイベントでないため、周辺環境に馴染む

ように常設のベンチ、さらにそのベンチを囲む常設の店舗の客席を活かし、引き立てるような、仮設ファニチャー等のデザインの選定や配置について現況に配慮して十分に検討する余地があったと考える。

休日は子供が活発に遊具で遊んでおり、多くは同じ子供が長時間利用していた。1時間ごとの調査の述べ人数で見ると数は多いように感じるが、実際には全体の利用者数は多いとは言い難かった。そもそも大手町地区はビジネス街であり、平日休日を問わずに子供が訪れる地区ではないことから、社会実験ではあったものの、偶然立ち寄るといった利用者は多く望めなかった。

今回は社会実験として、常設のベンチの間に仮設ファニチャー等で広場空間「バトンパーク」を設けたが、将来の恒常的な広場も仮設ファニチャー等を活用し、平日と休日の両方に対応するデザインが可能であると考え。その際、それぞれの利用者に相応しいデザインであることに加えて、平日も休日のどちらもマネジメントしやすいデザインであることも望まれる。

大手町地区と神田地区が橋梁でつながることから、大手町地区の就業者だけではなく、神田地区の住民にとっても日常の暮らしに溶け込むようなサードプレイスとなる広場空間となる必要がある。本稿の知見を活かして広場の設計・計画を行うだけでなく、適宜、仮設ファニチャー等を活用し、どちらの利用者にとっても居心地の良い広場空間になることが求められる。

#### 謝辞

本社会実験を主催された一般社団法人大手町歩道専用マネジメントをはじめとした関係者の皆様大変お世話になりました。

#### 註

註1) 参考文献3)は、本稿で取り上げた2022年度に実施された「BATON PARK-KAWABATA-RYOKUDO」の試行を踏まえて2023年度に実施された「BATON PARK-KAWABATA-RYOKUDO-2023」の調査結果である。

#### 参考文献

- 1) 千代田区HP, 新しい橋と船着場の名称が「仲通り散歩橋」と「鎌倉河岸船着場」に決定, <https://www.city.chiyoda.lg.jp>, 2024
- 2) 一般社団法人大手町歩道専用マネジメント・三菱地所株式会社, 外空間の居方を検証する社会実験「BATON PARK」を実施, [https://www.mec.co.jp/news/mec221020\\_batonpark/mec221020\\_batonpark.pdf](https://www.mec.co.jp/news/mec221020_batonpark/mec221020_batonpark.pdf), 2022
- 3) 三友奈々, 仮設什器での利用者の過ごし方に関する考察—社会実験「バトンパーク2023」の事例を通して, 地域施設計画研究, 日本建築学会, Vol. 42, pp.377-384, 2024
- 4) 気象庁HP, 過去の気象データ検索2022年10月東京都(東京)